

民報 ゆうばり

…さまざまな市民の声を一つに…

「夕張の再生を考える高齢者の会」発足!

公債費の見直し・減額、再生期間の短縮、自治権の早期回復を!

4月28日、「夕張の再生を考える高齢者の会」(井形節雄会長)の設立総会が開催されました。

当初100人の会員を集めることを目標にしていましたが、当日は2倍近い、192人を達成したことが報告されました。

◆会の目的には◆

「夕張市の財政再建計画の実施に伴い、廃止された従前の老人福祉をはじめ、他、自治体住民並みの市民生活基準を早期に実現させるため、公債費の見直しと減額、期間の短縮を求め、失われた自治権を早期に回復させることを目的とする」ことが会則に明示されています。

◆会の活動には◆

(1)廃止された事務事業を中心に市民生活基準の策定にあたる(2)北炭夕張新炭鉱閉山時からの経緯の検証(含む石炭の歴史村関係)(3)市理事者及び市議会との懇談(4)市民との懇談会及び他組織との交流―等があげられています。

◆債務の減額要求◆

また、挨拶の中では、「538億円の3分の2

◆市民の願い◆

様々な立場の市民の声を一つにまとめて市民の人権を無視した、「国や道の責任を棚上げしてつくられた財政再建計画」で取り上げられた、市民の自治権・市の裁量権を早期に取り戻すべく、市民の大きな動きが出てきたといえます。

総会では、「最終的に市民一つの大きな会にしていきたい」と抱負が述べられました。

決議文(抜粋)

…略… 私たち夕張市民は、…略… 共に失われた市民の自治権を取り戻し、私たち市民の手による 私たちのまち創りをすすめていくものである

例えば夕張市は常に炭鉱に従属的な立場にあった…略… これら石炭生産支援から閉山、事後処理に要した費用は昭和五十四年以降五百八十二億円、このうち三百三十二億円は地方債として市民が負担しているものである

さらに北炭本社は平成七年二月に会社更生法の適用を申請し、平成十七年一月会社更生手続きを完了している。一方、夕張市民はこれから十五間にわたって起債の償還を続けなければならないのである

…略… 炭鉱をはじめ一生懸命に働いてきた人達、それを支えてきた市民の夕張再生を願う望みを奪い、ささやかな老後の楽しみ、強いて言えば基本的な人権を奪ってでも借金を返させ、それまで市の裁量を一切認めないという制度の在り方は本当に正しいのか改めて問うものである

このような制度の在り方は我々高齢者だけではなく若者や子どもたちに対しても強く大きく作用している子供や孫達のためにも、「財政再生計画の期間短縮」を実現させなければならない

ここに夕張市財政再生計画の実施に伴い廃止された従前の老人福祉施策を始め、他自治体並みの市民生活基準を早期に実現させるため、公債費の見直しと減額、期間の短縮を求め失われた自治権の早期回復を目指し「夕張市の再生を考える高齢者の会」を

…略… 一日も早く「市民が安心して暮らして続けられるまちづくり」実現のため共に関係機関に強力に運動することを誓うものである

右決議する 平成二十四年四月二十八日

「夕張の再生を考える高齢者の会」

メーデー夕張集会開催

第83回メーデー夕張集会は1日、はまなす会館で開かれ34名が参加しました。今年のメーデーは、「消費税増税や原発再稼働、TPPなどの反対」を前面にかけ、昨年の東日本大震災からの復興支援も緊急な課題としてとりあげて、全国各地で開かれました。

夕張でも、筒井実行委員長が、「野田政権の国民生活を犠牲にする財界言いなりアメリカの使い走り政策を阻止しよう」とあいさつしました。さらに、5月5日泊原発が運転停止するのを機会に再稼働を許さない運動が進んでいることに触れ、夕張でも「原発ゼロ」の運動に取り組みむことを訴えました。

また、来賓では、鈴木直道夕張市長が「再生団



体でもあっても市民の生活を守りた。財政再建を国や道と協議して進めるために皆さんの後押しをお願いしたい。共いがんばりましょう」とあいさつし、会場から盛んな拍手が送られました。



中でも財政破綻責任の一端を国・道に求めた。このことが新たに市民運動になって動き出している。積極的に参加していききたい」とあいさつしました。

集会の途中で衆議院10区共産党候補の木村けんじさんもメーデー岩見沢会場から駆けつけ連帯のあいさつをしました。



「団結がんばろう！」を唱和するメーデー参加者

木村けんじ氏

(共産党衆議院10区候補)

夕張へ！～末広支部で集い～



各地を遊説中の日本共産党衆議院10区候補の木村けんじさんは11日、夕張に入り、商工会議所、市議会議長、教育長を表敬訪問し、そのあと末広支部の集いに参加しました。候補は「美唄の炭鉱で生まれ、夕張のみなさんと同じ経験をしました。1年ほど前には夕張高校に教頭として勤務し、お世話になりました」と思い出を話していました。

役にたったたくさんの「ひきだし」

国会「かけある記」

日本共産党 参議院議員

紙 智子

かれこれ二十近く活動と生活を共にしてきた夫の内山勝人が、先月、七十二歳で生涯の幕を下ろしました。これまでお世話になった多くのみなさんから、心のこもった言葉や激励をいただきましたことに、心から感謝申し上げます。正直、まだ実感がわきません。東京の宿舎で朝起きて、つい携帯電話に手をやり、「かけても出ないんだ」と思い出します。北海道の自宅に帰ってくると、いまにもドアのむこうから「おう！こころうさん！」と出てくるような気がします。

二〇〇一年に私が参議院議員となって国会と北海道を往復する生活になってから十一年。ほぼ毎日電話で会話していましたが、離れていても近くに感じるようになってきました。

たくさんの「ひきだし」を持っていて、私が「今度こういうテーマで質問しようと思う」と一言でも言おうものなら「ひきだし」を開け閉めして、役に立ちそうな材料をFAXで送ってくれることもしばしば。ありがたい存在でした。

先日、しばらくぶりに稚内市での演説会に参加し、懐かしい顔に出会い、全道各地を回って多くの人の切実な訴えを聞いてきた記憶がよみがえってきました。夫の遺志を受け継ぐ道は、そのみなさんの願いを実現するため、北海道での衆議院の党の議席奪還と、来年夏の参議院選挙で私自身の三選を果たす事に尽きると思いをしました。